



岡原功祐 | Kosuke Okahara

1980年東京都出身。早稲田大学卒。
 南ア国立WITS大学大学院中退。
 コロンビア・メデジンのスラムで、
 麻薬戦争の中に生きる若者たちの
 日常を切り取った『Contact #1
 -Any Given Day-』(2013年刊・KOW)や、
 2011-14年に原発事故後の
 福島を撮影した『Fukushima
 Fragments』(2015年刊・
 Edition de La Martinière)をはじめ、
 南米からアメリカ合衆国を目指す
 不法移民たちに同行した記録
 『Almost Paradise』(2014年刊・Only
 Photography)などの写真集がある。
 2009年には世界報道写真財団が
 世界中の若手写真家から12人を選ぶ
 Joop Swart Masterclassに
 日本人として初選出。
 Photo District News が選ぶ
 世界の若手写真家30人にも選ばれる。
 また2010年には、
 『Ibasyo』でW. ユージン・スミス・
 フェローシップを受賞。

【目次より】

プロローグ

- ▶木部ちゃん——耳をふさぎ、安らぎをさがす
 - ▶ゆか——トンネルの先に見える薄日
 - ▶凧ちゃん——繰り返す日々の営み
 - ▶さゆり——自尊心のゆくえ
 - ▶ミリ——期待される自分、なりたい自分
- エピローグ

写真_Ibasyo_60点余



〒169-0072 新宿区大久保2-4-12
 新宿ラムダックスビル12F
 tel:03-5155-8940 fax:03-5155-8941
 www.kousakusha.co.jp

自傷する少女たち “存在の証明”
Ibasyo

かおりは

「私には居場所がない」

と泣いて泣いた。

“自傷”をめぐるフォト・ドキュメンタリー！

世界的に活躍する写真家・岡原功祐が
 自身のテーマとする「人の居場所」。
 本書はその始点となる、
 自傷する人達への取材・記録である。

「自傷」をめぐる、一人ひとりの秘められたストーリーを
 写真に残し、文章に綴った。
 手製本の写真集にして世界各国の
 人びとのもとへ貸し出したのも岡原の発案だった。
 その貸本に多くのメッセージが寄せられている。

撮影開始から十数年が経ったいま、
 文章ドキュメントと写真60点余を収録。
 「居場所」を求めながら、
 自らを傷付けずにはいられた彼女たちの
 細やかな心性に光を当てる。

Ibasyo — 自傷する少女たち “存在の証明”

2018年3月30日発売

四六判変型・フランス装・370ページ[写真88ページ]

定価=本体2,800円+税

ISBN978-4-87502-490-3